

科目番号	37015	分類	助産学実習	履修者	助産学専攻科	学年	1
科目名	助産学実習 II (長期継続実習) Clinical Practice in Midwifery						1
							配当セスター 前期・後期
担当者	米山万里枝 / 和田佳子 / 島田祥子 / 古川奈緒子 / 前田のぞみ / 他	区分	必修	単位	2	時間数	90
講義の目標および概要							
<p>妊娠中期から妊婦を受け持ち、妊娠期から分娩期および産後1ヶ月までの、継続した助産を行う。具体的には以下の通り。</p> <p>①妊婦の健康診査と必要な保健指導を行う。 ②妊娠経過をふまえて個別的な助産計画を立案し実施する。 ③退院後の母児への援助や家庭訪問の必要性についてもアセスメントし、必要なケアを実施する。 ④新生児の出生直後から生後1ヶ月までの経過について、助産診断と必要なケアを実施する。</p>							
授業計画							
実習目標							
<ol style="list-style-type: none"> 妊婦の健康診査と必要な保健指導を行う。 妊娠経過をふまえて個別的な助産計画を立案し、実施できる。 退院後の母児への援助が考えられる。 家庭訪問の必要性が考えられる。 							
実習内容							
<ol style="list-style-type: none"> 妊婦の健康診査と必要な保健指導を行う。 妊娠中期から妊婦を受け持ち、分娩介助から産後1ヶ月までの継続したケアを実施する。 							
実習の展開方法							
<ol style="list-style-type: none"> 妊娠期の助産診断を各健診毎に実施し、必要な助産計画の立案、実施を行う。 <ul style="list-style-type: none"> 受け持ち妊婦へのケアは助産計画立案のもと行う。 助産計画や保健指導は、事前に教員および臨床指導者の確認を得て実施する。 妊娠期のサマリーは、分娩に至った段階で実施する。 受け持ち対象者への援助を最優先して行う。受け持ち対象者が異常に移行した場合については、臨地実習指導者の指示に従い、可能な範囲で援助を実施する。 							
成績評価の方法	実習への出席状態、助産過程の展開・実践状況や態度、実習記録内容、分娩介助内容などから総合的に評価する						
テキスト	実習要項、資料配布等にて提示						
参考図書	日本助産診断・実践研究会編：実践マタニティ診断 第4版 (B5版) 医学書院 (ISBN: 978-4-260-02493-8) 日本助産診断・実践研究会編：マタニティ診断ガイドブック 第5版 (B6版) 医学書院 (ISBN: 978-4-260-02445-7)						
備考	臨地実習は学内で学習したことを実践する場です。自分の努力の成果が試される場所です。自分の個性も出ます。主体的な学習を行うことを期待します。						